

ようこそ桜咲く展勝地へ 北上展勝地さくらまつり

北上展勝地さくらまつりは4月10日から5月6日まで行われました。今年の開花宣言は4月13日で、4月20日ごろに見頃を迎えました。期間中、約43万3,000人の観光客が、2km続く桜のトンネルや、民俗芸能公演などを堪能しました。また、歓迎キャンペーンの一環として、台湾から訪れたツアー客30人がみちのく民俗村で茶道を体験。参加した曾坤地さん(68歳)は「茶道の体験は何度かしていて、また体験できた。お茶の作法は素晴らしい」と語っていました。

台湾から訪れた人たちが指導を受けながらお茶を立てました



来場者はさまざまな作品をじっくり眺めていました

オリジナル作品、多彩に 本を活用した手作り作品展

本を活用した手作り作品展は4月28日から5月6日まで、中央図書館で行われました。

同作品展は、本に出てくるキャラクターのぬいぐるみや、キルト・バッグなどの手芸品のほか、マスキングテープを使った小物や折り紙など、市民から募集した作品52点を展示しました。また、出品者の一人から、レース糸を使って作製した色とりどりの手まり23個が寄贈され、5日のこどもの日に来場した子どもたちにプレゼントされました。

夜の博物館が舞台になった ナイトミュージアムコンサート

ナイトミュージアムコンサートは4月30日、博物館本館で行われました。同コンサートは、さくらまつり期間中に行われた「會田コレクションと岩手ゆかりの刀剣展」のイベントの一環で、初めて開催されました。専修大学北上高等学校郷土芸能部の13人が花笠音頭や民謡など5曲を披露。訪れた佐々木昭宏さん(48歳・仙台市宮城野区)・美奈子さん夫妻は「みちのく民俗村を訪れた帰りに博物館に立ち寄った。コンサートを見られてとても良かった」と話していました。

花笠音頭を披露する専修大学北上高等学校郷土芸能部の皆さん



どの本にしようかな 春の古本市

来場者は、たくさんのお本のなかからお気に入りの本を探していました



春の古本市(北上読書連絡会主催)は6日、中央図書館で行われました。古本市は、毎年春と秋に行われており、寄付された本を安価で販売。収益をお年寄りや視力の弱い人でも読みやすい大活字本などの購入に充て、市に寄贈しています。当日は好天に恵まれ、訪れた来場者は、約3万冊の中からお気に入りの本を探していました。家族と訪れた奥堂葵さん(村崎野)は「古本市は春・秋共にいつも楽しみにしている」とたくさんのお本を前に笑顔で話していました。

遊びながら鬼を知ろう！ こどもの日わくわくイベント

こどもの日わくわくイベントは5日、鬼の館で行われました。親子で鬼に親しんでもらおうと、毎年こどもの日に開催されている同イベント。祝日ということもあり、館内は多くの親子でにぎわいました。

子どもたちは、鬼剣舞衣装の着付け体験をしたり、風船にようかいの絵を描いたり、お面に色を塗ったりと、さまざまな催しを楽しみました。訪れた久保咲寧ちゃん(黒沢尻東小3年)は「初めて鬼の館に来た。風船づくりをするよ」と話していました。

お面の色付けなど、催しが行われました。館内ではさまざまな



展望台からは雪が融け新緑に包まれ始めた山々や市内などが一望できました

新緑と雪の共演 夏油高原新緑まつり

夏油高原新緑まつり(夏油高原まつり実行委員会主催)は5日・6日の両日、夏油高原スキー場で行われました。今年は昨年より一週開催を早め、同スキー場の営業期間中にまつりを実施。岩崎鬼剣舞やダンスなどのステージイベントや、多彩な品々が並ぶクラフト展、岩崎だんご汁などの露店が並ぶうまいもの市が開催されました。家族で訪れ、ゴンドラ遊覧を楽しんだ小林世津子さん(奥州市)は「天気が良くて景色がきれい。温泉も入ってさっぱりした」と話していました。

祝!百歳 これからもお元気で 石田キミさん(常盤台)

市は、百歳を迎えた石田キミさんに祝い状と記念品を贈り、長寿を祝いました。

石田さんは大正7年4月27日生まれ。24歳のときに故三郎さんと結婚し、子3人、孫1人に恵まれています。49歳の時に夫が亡くなり、小学校の教師を務めながら、女手一つで3人の子を大学まで進学させました。退職後は生け花を教えたり、地域の活動に積極的に参加したキミさん。長女の幸子さんは「明るく働き者の母。百歳まで生きてくれて感謝している」と語りました。

家族や高橋市長、施設の皆さんらに祝福されるキミさん(前列右から2人目)



(一財)きたかみ地域振興財団佐藤安弘理事長(左)に誓いの言葉を延べる入校者

楽しみながら農業を学ぼう 平成30年度きたかみ農楽校入校式

平成30年度きたかみ農楽校入校式((一財)きたかみ地域振興財団主催)は4月26日、ふるさと体験館「北上」で行われました。同校は、農業を楽しみながら学ぶことを目的に17年度からスタートし、延べ248人が参加。本年度は13人が入校し、11月までの7カ月間、ほ場実習や育てた野菜の販売実習などを通じ農業を学びます。佐藤和敏さん(67歳・北鬼柳)は「野菜作りが好きで再度入校した。実習と並行して市民農園を借り、キュウリやナスなどを作りたい」と話していました。